



地方物産調査第一報

神奈川縣
静岡縣

寫了
校正
川口

772



414
A3879
1

地方農産物製造諸品調査ノ際見聞シタル實況左之通致
致報知候也

地方農産物製造諸品調査第一報告

未及通行調査候分ハ追テ第二報ヨリ接續可

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

神奈川縣

小田原 相州

本地ハ至重ナル物産アルヲナシ近時一個ノ銀行アリテ舊小田原藩士吉野直興之カ支配ヲナセリ同氏ハ物産上ニ盡カセル人ニシテ舊足柄縣奉職ノ項養蚕ノ業ニ注意シ士族ノ女子二十名ヲ募リ富岡製糸場ニ遣ハセシニ惜哉女子等卒業ノ際本縣廢止ノ命令下リ其事竟ニ水泡ニ属セリ曾テ同氏ハ本地ノ富

豪ト謀リ桑楮ヲ栽植セントシタルヲモアリキ其後
精米事業ニ從事シ勸農工作兩局ニ依頼シテ漸ク器
械ヲ造立シ其社ヲ東京築地ニ設ケタリト
吉野氏嚮ニ其所有地内三千餘坪ヲ開耕シテ茶子ヲ
下種セリ同氏云ク倘シ現今本地士族カ所有セル田
圃ノ垣ニ換ルニ桑樹ヲ以テスレハ大約十萬餘株ヲ
栽ルヲ得ヘシ是レ皆空閑無用ノ地ニシテ如斯洪益
ヲ謀ルヘシト

本地十字町ニ細野虎吉カ創製シタル水車機織器械
一座アリ成製ノ後ハ板橋村小田原ノ西一里許溪流ニ架
セントス此事タル明治五年ヨリ研究シテ現今漸
ク其功ヲ全フセルナリ器械ハ木製ニシテ機関車等
ハ錢ヲ用フ絹綿兩用ニ便ナリトス此器ヤ細野虎吉

カ創製ニ出ルト雖モ之ヲ保護資助スル者ハ本地小
川清中津川藤吉等ノ人ナリト云ヘリ

一小田原人口凡五千人士族凡一千人

一足柄下郡人口凡一万人弱

一本郡農産等ニ通曉スル者ハ下足柄郡井細田村中戸川
清造及ヒ酒匂村當時縣會議員鈴木新左衛門ナリ

一人望多キ者ハ舊小田原士族吉野直興ナリ

一物産製造ニ係ル者ハ小田原士族カ製スル傘及ヒ木地

漆器等ナリ

一農産ノ著名ナルハ烟草木材漆及ヒ魚蠶等ナリ

一肥料ハ多ク魚類ト人糞ヲ用フ

一人民カ生計ノ盛衰ヲ論スレハ士族ハ大半衰ヘタリ商
賈亦々之ニ次ク農工ハ盛ナル者過半ナルベシ

一新設事業ハ銀行及ヒ機織器械業ナリ

波多野

本縣管内烟草ノ產地ニシテ寶永年間始テ栽植シ亨保年度ニ至リ増殖シ現今ハ逐年増加ノ景況アルヨシ産出賣却ノ高ハ拾五万口或ハ貳拾万口ニ過ルリアリ従前ハ一反歩ノ地ニ烟草四千五百株ヲ栽種セシガ方今五千株ヲ栽種スルニ至レリ波多野烟草ト通称スレ氏之ヲ産スルノ地極テ多シ遠其通信ヲ得タレハ概略ヲ左ニ掲載ス

相州大住郡秦野ノ内

寺山

名古屋

落合

小菘毛

菘毛

東田原

西田原

羽根

菩提

横野

戸川

曾屋

以上北波多野ト称ス

堀山下

同川

同齋藤

同沼代

千

澁沢

平沢

今泉

尾尻

西大竹

上

大槻

下大槻

以上南波多野ト称ス

右二十四箇村ノ内上業品種ヲ産スルノ地左ノ如シ

千村ノ内字長坂 平沢村ノ内字山越 羽根村ノ内字

松原

波多野ノ外當今烟草ヲ産出スルノ地左ノ如シ

足柄下郡大住郡陶綾郡ノ内ニテ凡五十四箇村ナリ

湯本

湯本及ヒ箱根山中板橋風祭湯本茶屋塔沢大平臺須雲川畑箱根元箱等ノ諸村ハ率子木地漆器細工ヲ以テ營業スル者多シ温泉アルカ為メニ四時浴客ノ断エルト無ク通商ノ道自カラ開ケ随テ木地漆工ハ益

々其業ヲ増殖シタリ

一漆器卸商 八戸

一同 小賣商 二十三戸

一工人 凡三百七拾人

一工人一人ニ付一日ノ賃錢金貳拾五錢

一一ヶ年間物品製造高凡金貳万貳千貳百圓利潤凡一割

一物品賣捌箇所 東京 横濱 大阪 伊勢

一物品種類概略 手遊物類 菓子 盆類 塗白木共并 溜塗 盃 并 茶

形入子物類 煙草入 楠類 細工 箱物 同 寄木 細工類

一木地細工ノ材ハ 檉楠 ヤシヤエゴ山毛檉等ナリ

一木材伐採ノ地ハ 箱根須雲川畑ヨリス 今來ハ世附

中川矢倉沢及ヒ駿東郡ヨリモ出ス

一木材一駄ノ人足賃凡貳圓位

一樹木栽植ノ方法ナシ数年ノ後ハ必ス不足ヲ生セン

一漆ハ相州大住郡及ヒ足柄上郡ヨリ産スル者ヲ用フ近

來ハ「クルメウル」ヲモ交用スルニ至レリ

一官林ハ松杉檜ノ類ヲ栽植セリ

一木材ノ仕用ハ細工モノニ供スル方利益多シ

一維新以來木地器械ノ發明ハ明治六七年頃ヨリ大車「ダ

イバシトヲ用ルトナレリ尤モ是ハ大盆其他大器ヲ

製スルニ用フ

一木地細工ノ創業ハ凡五十餘年前ニ過キス湯本村ニテ

ハ万徳田村徳二郎ヨリ始ルト云フ續テ板橋村内野勘

兵衛ノ祖ナリ寂モ盛殖セシハ維新以來ニ在リ但昨明

治十二年ハ少ク消額ヲ減セリト

一村民甚シキ貧困ノ者ナシ又公事訴訟等ヲ起スモノナ

シ

一洗兒ノ弊ハ古來聞カスト云フ

一村民從前ハ皆懶惰ニシテ晏起ノ弊アリシカ福住正兄
之ヲ薰陶シテ令ハ全ク其風ヲ革ム

一新道ノ便ヲ通スルヲ既ニ實地ノ測量並ニ允可ヲ經テ
資金亦備ルト雖モ村議未タ一決セザルヨシ

一圃地ノ新開^開セル者アリト雖モ或ハ畠ノ山林トナリタ
ルアリ之ヲ平均スルハ十年以前ト大同小異ナルハ
シ

一植物ノ本地ニ適應スルアルベケレ氏土人皆目前ノ營
業ノミニ走リ栽培等ニ注意スル者尠シ

一山中ノ人民ヲ區別スレハ工人四五分商賈三四分農民
一二分弱ナリ

一各所ノ温泉ニ變状アルヲ甚々尠シ明治十二年早川暴
漲ノ際湯本ノ湯槽ニ溢入セシノミ

一大平臺人家三十六戸 木地細工人三十六戸 内漆工
三戸

農家甚々稀ナリ
宮城野 内字二ノ坪 字本 賀トモ 三村

一人家七十五戸
一人口四百〇一人内 男 百九十一人 農 四分
女 二百一十一人 樵 六分 木地工 四人

一温泉熱度 冬 百五度 位
夏 百十度 位
耕耘ニ牛ヲ使用スルヲ無シ

馬ヲ使用スルモノハ稀ニアリ然レ氏多ク農事運轉
ノ兼用ナリ馬一頭ノ代價凡三拾圓寒氣ノ為メニ馬
ノ健康充分ナラス

肥料ハ所謂ル寒肥ノ外ニ使用スルモノ稀ナリ人尿

敗魚寂モ稀少隨テ高價ナリト云フ
傭夫賃銀一日凡ハ錢ヨリ拾五錢マデナリ但シ食物
ハ傭主ヨリ供ス

作物ハ豆類麥類都テ不良ナリ馬鈴薯ト芋トハ良シ
該地人民ノ農ヲ勤メサル所以シノモノハ田地瘠荒
小麥等ハ一斗ノ種子ニテ四斗ヲ得ル能ハサルヲ常
トス稍々凶歳ニハ二斗ヲ得ル能ハスト云フ然レト
モ賦稅ハ免レサル故ニ土地_ヨリテハ耕作スルモ
其利ナキノミナラス僅カニ傭夫ノ賃銀ヲ償フニ過
キスト云フ斯ノ如キ形況ニシテ猶ホ麥作ヲ事トス
ルハ畢竟春時ノ耕作迄ニ土地ノ荒蕪ニ委スルヲ恐
レテナリ

此地ハ甜菜根ヲ播殖セハ土地氣候ニ適スヘキハ辨

ヲ俟タサルヘシ

仙石原

本地平坦ノ空原凡六百町歩アリ有志者謀テ事ヲ興
スヘキヨシ然レトモ未々著手ニ到ラス

宇大地獄小地獄邊ハ硫黃土甚々多ク久シク其業ニ
従事スルモノナリ目下ハ硫黃製ノ小屋一宇アリテ
三四ノ傭夫之ヲ製セリ此管理人ハ古嶋軍吉岩瀬安
彦ナリト云フ其他ノ場所ハ休業セシト見ヘタリ
以前ハ明礬製造場アリシカ目今其業ヲ廢シタリ

静岡縣

本縣一般著名ノ農産品及製造品概算

本縣明治十一年
度ノ調査ニ係ル

米

貳拾七萬石

百三十拾五萬石

駿河

八萬石

四拾萬石

伊豆

四拾萬石

貳百萬石

遠江

合七拾五萬石

合三百七拾五萬石

大麥

拾五萬石

三拾三萬石

駿河

五萬石

拾壹萬石

伊豆

貳拾萬石

五拾五萬石

遠江

合四拾萬石

合九拾九萬石

小麥

壹萬五千石

五萬貳千五百石

駿河

八千石

貳萬八千石

伊豆

貳萬石

七萬石

遠江

合四萬三千石

合拾五萬。五百石

製茶

貳百四拾萬斤

四拾八萬石

駿河

六萬六千斤

壹萬三千貳百石

伊豆

三百萬斤

六拾萬石

遠江

合五百四拾六萬六千斤 合百。九萬三千貳百石

紅茶

拾萬九千斤

貳萬五千石

駿河

貳萬九千五百斤

六千八百石

遠江

合拾三萬八千五百斤 合三萬千八百石

漆器

拾萬石

駿河

竹細工

壹萬五千石

同

葛朶細工

千五百石

同

駿河半紙

四萬五千貫目

五萬石

同

雜紙

貳萬三千貫目

壹萬石

同

雁皮紙

貳萬四千五百狀

千五百石

伊豆

雜紙

歲首

半紙類

六千貳百五拾貫目 貳千五百回

同

五千九百貫目

壹萬回

遠江

紙料

三極

貳拾萬貫目

三萬五千回

駿河

楮皮

九萬貫目

貳万貳千五百回

遠江

疊表

千貳百枚

千回

伊豆

貳拾五萬枚

壹萬五千回

遠江

合貳拾五萬千貳百枚

合壹萬六千回

寶綿

同

貳拾萬貫目

拾萬回

同

木綿布

七萬七千反

三萬五千回

同

葛布

六百反

三百回

遠江

砂糖

貳拾萬貫目

八萬回

駿河

拾五萬貫目

七萬回

遠江

合三拾五萬貫目

合拾五萬回

海苔

拾萬帖

貳千回

駿河

拾四萬三千帖

四千回

伊豆

拾貳萬帖

四千回

遠江

合三拾六萬三千帖

合壹萬田

寒天

貳千貫目

四千田

伊豆

山葵

貳千貫目

千五百田

駿河

五千貫目

五千田

伊豆

合七千貫目

合六千五百田

石油

千石

壹萬八千田

遠江

繭

千貳百石

壹萬五千田

駿河

八百七拾石

壹萬田

伊豆

千三百石

壹萬七千田

遠江

合三千三百七拾石

合四萬貳千田

生糸

貳千五百斤

八千七百五拾田

駿河

千貳百斤

三千六百田

伊豆

三千百斤

八千四百田

遠江

合六千七百斤

合貳万七百五拾田

松茸

貳千貫目

千田

遠江

椎茸

貳千六百貫目

三千七百田

駿河

六千貫目

壹萬千田

伊豆

貳萬貫目

三萬三千田

遠江

合貳萬八千六百貫目

合五萬。七百田

七

歲

省

九

藏

省

石花菜

三十萬斤

壹萬石

伊豆

鱈節

壹萬千貫目

壹萬五千石

駿河

壹萬四千貫目

壹萬六千石

伊豆

壹萬貫目

壹萬三千石

遠江

合三萬五千貫目

合四萬四千石

興津鯛

千枚

三百五十石

駿河

芝川海苔

三萬枚

百五十石

同

富士烟草

壹萬貳千五百斤

千石

同

倉真烟草

貳萬斤

千五百石

遠江

材木

五十萬本

貳拾萬石

同

家根板

四十萬束

三萬六千石

同

建築石

拾五萬個

壹萬五千石

伊豆

炭

七十萬俵

七萬石

同

石炭

五千石

千三百石

遠江

鰻

壹萬五千貫目	壹萬貫目	同
錫鱈鱉		

絹布	四萬五千貫目	伊豆
----	--------	----

三百拾六反	千五百貫目
-------	-------

毒荏油	三萬五千貫目
-----	--------

千七百石	
------	--

種油	七萬貫目
----	------

貳千五百石	
-------	--

苧麻	四千貫目
----	------

三萬貫目	
------	--

總計七百貳拾五萬八千五百五拾貫目

老農ヨリ實地聞合ノ高

一製茶	三百萬貫目
-----	-------

一砂糖	五拾萬貫目
-----	-------

一綿	三拾五萬貫目
----	--------

一楮	七萬貫目
----	------

一三楮	拾萬貫目
-----	------

一椎茸	七萬貫目
-----	------

一疊表	拾萬貫目
-----	------

一蠶繭	五萬貫目
-----	------

一林木	三拾五萬貫目
-----	--------

合四百五拾九萬貫目

明治十一年調査管内戸数人負

駿河國

戶數七萬千。六十三戶

男 拾九萬七千三百。八人

女 拾八萬八千六百二十四人

人口合計 三拾八萬八千三百三十五人

伊豆國

戶數二萬六千八百九十戶

男 六萬九千四百十二人

女 六萬九千。四人

人口合計 十三萬八千四百十六人

遠江國

戶數八萬九千五百三十三戶

男 二十一萬六千五百十四人

女 二十一萬九千九百一十一人

人口合計 四十二萬八千四百二十五人
人口總計 九十五萬二千七百七十三人

遠江國明治八年一戸宛反別調 静岡縣調查

但し民有山林ハ九年ノ調査

民有地

一田畑宅地塩畑反別五萬六千四百五町六反六畝五步

一戸ニ付平均反別六反三畝步

荒地

開墾地等反別八萬八千七百三十三町六反九畝廿六步

山林原野

外反別社地并潰地等除之 一戸ニ付平均反別九反九畝三步

官有地

一田反別六十八町六反八畝五步

一戸ニ付平均反別二步

一畑反別七十九町九反八畝十八步

一戸ニ付平均反別三步

一宅地反別六町四反五畝十七步

一戸二付平均 反別二合

一荒地反別百九十七町七反七畝二十一步

一戸二付平均 反別七步

一官林反別九万六千六十一町七反四畝十九步

一戸二付平均 反別一町七畝九步

寺社廢跡地

原野

海岸砂地反別一萬百六十六町八反三畝十一步

池沼湖

一戸二付平均 反別一反一畝十一步

外公園地揭示場神地寺院境内潰地等反別除之

駿河國

一田反別一萬五千十二町二反二畝二十四步三厘六毛

一戸二付平均 反別二反一畝十五步五厘

一畑反別九千九百七町四反十三步四厘四毛

一戸二付平均 反別一反五畝六步

一潰損地反別千六百三十二町九反四畝三步五厘五毛

一戸二付平均 反別二十二步

伊豆國

一田反別四千七百一町一反九畝步五厘

一戸二付平均 反別一町七反六畝二十三步

一畑反別二千九百五十一町六反六畝二十一步四厘一毛

一戸二付平均 反別一町一反一畝十七步

一潰損地反別五百四十一町七反五畝八步三厘一毛

一戸ニ付平均 反別。二歩

明治十一年調査管内牛馬頭数一覽表

	牝牛	牡牛	牝馬	牡馬
駿河國	五百十四	千七百〇一	四千二百二十六	四千九百四十六
遠江國	百二十	七百八十二	二千八百四十一	六千六百三十二
伊豆國	四千〇九十六	千八百五十四	三千百二十六	千七百四十七
合	四千七百三十	合四千三百三十七	合一万〇百九十三	合一万三千三百二十五

茶葉性質善惡ノ順序

安部郡	志太郡	有渡郡	周智郡	豐田郡	磐田原	敷知郡	庵原郡	伊豆一
品位下等ナリト雖モ八十八夜 收穫シ金額取モ多シトス	品位下等 數頭取多	品位下等	品位下等	品位下等	品位下等	品位下等	品位下等	品位下等
一茶葉ノ品位ハ上等少ク中等下等ノ分多シ	一製茶賣捌ノ箇所ハ横濱東京ヲ取トス							

一茶商ノ大ナル者ハ静岡安西町三丁目尾崎伊兵衛外十

一二名ヲ以テ取トス

一茶圃新開ノ地ハ遠州三方原金谷牧之原等ヲ取トス

一茶葉擇分人ノ給料一人ニ付六十文十四五年前拾錢現令

一茶ノ古キ産地ハ駿州安倍郡足久保邊ナリ

一茶ノ培養ハ多ク人屎ヲ用ヒ山間等ノ地ニハ不得已シ
テ苧草等ヲ用フ安部榛原兩郡ハ殊ニ培養ニ注意ス

清水港ヨリ一年間輸出製茶高

三百六拾壹萬三千三百六拾三斤

此目方五拾七萬八千百三拾八貫〇八拾目

平均目方壹貫目ニ付銀百目六拾目ニ付金壹圓

此金九拾六萬三千五百六拾三四四拾六錢六厘六毛

同港ヨリ同上椎茸高

拾貳萬四千八百七拾五斤

此目方壹萬九千九百八拾四

平均目方六百五拾目ニ付金壹圓替

此金三萬七百三拾八圓四拾六錢壹厘五毛

右二口合金九拾九萬四千三百。壹圓九拾貳錢八厘壹毛

三極產地ノ順序

富士郡 庵原郡 駿東郡 安部郡 志太郡

楮產地ノ順序

豐田郡 周智郡 敷知郡 引佐郡 佐野郡

雁皮產地ノ順序

加茂郡 那賀郡 田方郡 君澤郡 周智郡

佐野郡 但シ各郡トモ古來ハ天生ナルカ方今實薛ノモノ多シ

綿產地ノ順序

豐田郡 山名郡 敷知郡 長上郡 鹿玉郡

佐野郡 城東郡 周智郡

砂糖產地ノ順序

有渡郡 城東郡 敷知郡 長上郡 庵原郡

富士郡 駿東郡

椎茸產地ノ順序

周智郡 安部郡

吉野 豆州

此地ハ從來三業山業 農業 漁業ノ地ニシテ生産上甚々貧困ナルヲ無キニ似タレ氏未タ人口甚々蕃殖セラレ知ラス然レ氏談人民ハ方今輿論ノ為メニ鼓舞セラレ大ニ産業ヲ興スヘキノ点ニ着意シタリ

牛馬豚ヲ牧養スルヲ見ス

地面ハ多ク各人民ノ所有ニシテ官有甚々少シトス
而シテ耕地ハ漸ク十分一弱ナリ其他ハ木林ヲ栽植
シ或ハ抹草ヲ栽植スヘキノ地ニアラス

本村ノ山上ニ當リ甚々廣キ空原アリ村人ハ其地ニ
於テ一ノ事業ヲ興スヘキ見込アリト云ヘリ

地質ハ東京近傍稀有ノ良地ニシテ地底数寸ハ礫石
巖石或ハ沙礫ヲ含有シタリ

此地ノ氣候ハ固ヨリ順好ナリト雖氏就中本村海岸
ヨリ五六十間高キ處ハ殊ニ順好ナルト他方ト一箇
月間ノ差アリト謂フヘシ

見込 此地ノ氣候ト地質トハ恰モ伊太利法蘭ノ間
ナル地中海邊ニ彷彿タリ此二物ヤ實ニ天然無上

ノ培養ナリト謂フヘシ故ニ此地ニ適應スヘキ農
産ヲ興サントスルニハ蔬菜菓物ノ新珍ナルヲ作
リ出スヨリ良キハナシ尤モ蜜柑ハ曾テ此地ニ栽
培スレ氏種類ノ少キコソ遺憾ナリ有志者倘シ紀
薩二州其他諸州ノ良種ヲ擇テ之ヲ移栽シ且ツ善
良ナル蔬菜ノ類ヲ繁殖セシムルアラハ實ニ此地
ノ得策ナリト信ス

此邊不毛ノ地面ニ於テハ麥作等ニ従事スルヨリ
寧ロ葡萄ヲ栽ルニ如カス聞ク甲州法ノ栽培ハ三
株ノ葡萄ヲ育養シ三年ノ後金三圓ノ價アリト然
レハ人家毎戸ニ二株ノ葡萄ヲ栽ウヘシ風土ニ適
スル疑ナシ倘シ右ノ如ク三年以後ニ至ラハ其益
舉テ數フベカラス甲州法ノ栽培スラモ猶ホ此ノ

如シ況ヤ歐洲精密ノ法ニ於テオヤ
地勢山麓ニ據リ其高低ハ屋脊ノ如ク又提塘ノ如
ク然リ故ニ此地ヲ墾闢シテ園圃ヲ作ルモ級々相
望ムノ間猶厓畔ノ空地ヲ得ヘシ因テ圃面ハ葡萄
ヲ仕付ケ其厓畔ハ務テ三椏楮木ヲ栽附ケ些少モ
空間無用ノ地ナカラシメ且人ヲシテ楮椏ハ斷崖
傍地ニ宜ク平原田圃ニ植ウヘキモノニ非サルヲ
ヲ詳知セシムヘシ

右ノ如ク氣候地質ノ善良ナルモ廢棄ノ荒地極テ
多キハ甚々惜ムヘキナリ此間寂モ繁殖方ニ注意
スヘキハ林木及ヒ鷄豚等ナリ決シテ牛馬ヲ牧ス
ヘキノ地ナラス夫レ材木ハ年々之ヲ伐採スルノ
ミニテ他年盡ルノ期アレハナリ又鷄豚ハ食料

ノ外許多ノ尿料ヲ得レハナリ然リ而シテ本地墾
耕ノ地僅ニ一反貳拾四五町ノ地價ニ過キス荒地
ノ如キハ賣價無シト云フモ可ナリ故ニ微給薄祿
ノ官員及ヒ赤貧窮乏ノ農商モ容易ニ之ヲ買得ル
トアルヘク且ツ熱海往復ノ沿道ナレハ其便益ノ
漸々波及スルハ又々余カ言ヲ俟タサルナリ

葡萄ニ造スル一証ハ此地岩石多ク開墾ノ際石粉
土ニ委シテ他ノ培養タル故ナリ

此地又多ク石林ヲ産シ諸方ニ運送スト雖氏恨ム
ラクハ海岸波門ノ設ナキユヘ舟屢々礁石ニ觸レ
テ困難極メテ多シ尙シ其石林ヲ以テ波門ヲ築造
スルキハ舟楫其便ヲ得テ物産輸出ノ額ヲ増スヘ
シ且ツ石材ハ他所ノ産ヨリ廉價ニシテ其運搬ノ

便利モ亦大ニ他所ニ勝レリ

熱海 豆州

見込熱海ヨリ上方玄峯邊ハ一田ノ空原甚々多ク都テ人民ノ所有トナレリ然レモ其既ニ開墾ニ屬スルモノハ百反歩ノ内僅々一二反ニ過キサルノミ亦甚々惜ム可シトス現ニ歐洲ノ法ニ土地ヲ所有スル丁三年ヲ過キテ猶ホ開墾セサル中ハ他ヨリ其地ヲ侵取シ得ヘシト我政府ニモ宜ク嚴ニ此法制ヲ設クヘシ今此地ノ墾タル田圃トナスニ宜シカラス材木栽培ヲ以テ最モ急務トスヘシ

熱海ノ有志者結合シテ道路開墾ノ丁ニ注意シ管轄廳ヨリ資金七千圓ヲ借下ケタリ此消却ハ二十年賦ト見積リ熱海ノ浴客及ヒ商賈等ニ課賦スルノ法ニ

決議セリト今其課賦ノ方法ヲ聞クニ浴客ヲ區別スル丁三等ニシテ第一等ヲ一錢トシ第二等ヲ六厘トシ第三等ヲ三厘トス通計十二万泊ニシテ其消却ヲ全フスヘシ而シテ有志者此開墾ノ道路ヲ國道トナサント擬セリ固ヨリ小田原驛ヨリ熱海ノ間ハ國道ニ遶スト雖モ熱海三島ノ間ハ山峯峻絶甚々便ナラサルニ似タリ倘シ其里程ヲ迂回伸長シテ之ヲ開墾スル中ハ國道タルモ亦々妨ナカルヘシ

三島

此地ハ格物ノ物産アル丁ナシ獨養魚場アルミ該場ニ消費スル金額一年五百圓ニシテ溝河ニ放ツ所ノ魚苗ハ一年拾萬頭ナリト該場池水ハ甚々清潔ナルモ稍々含有物アルカ為メカ魚類ノ眼疾ヲ醸シ及

ヒ魚虱ヲ生スルヲ多シ或云ク試ニ「ラネル」等ヲ此
水ニ涵セハ久クシテ腐朽スルヲアリト
製紙會社ノ分社アリテ木綿織ヲ事トス機具十八座
工人僅ニ六七人實ニ微々タル工業ト謂フヘシ
此地流水ノ便アル故ニ水車ノ精米機械アリ稍々繁
盛ヲ極メタルカ如シ此他見ルヘキ事業アルヲナシ
三島ヨリ南ニ去ル一里半許ノ地ニ平井村アリ大村
近時天蚕ノ業ニ從事ス平均氣候ノ順好ナルヲ以テ
下総地方ノ天蚕ニ比スレハ極テ好結果ヲ得ルニ至
ラン
三島近傍水利ニ便アリ水車ヲ架シテ凡百ノ器械ヲ
設ケ諸般ノ工業ヲ起スニ甚々益アリ而シテ用水常
ニ其平均ヲ保ツヲ得バキモノトス如何シトナレ

ハ此地ハ函嶺東ニ峙チ東南豆州ノ山脉起伏シ北方
富士ノ山脉綿亘シテ溪澗ニ會合シ水源皆此ニ輻湊
ス故ニ水量ヲ増減スル甚々自由ナルヲ以テナリ
此邊樹木ヲ伐採スルヲ甚々多ク實ニ愁フヘキナリ
倘シ後來ニ於テ漸次栽植スルノ方法無クシバ獨リ
林料薪炭ノ用ヲ辨セサルノミナラス水利ノ便否ニ
関涉スルヲ蓋シ亦々少小ニ非サルヘシ

富士郡舊五小區ノ内

此地ニ於テ所謂駿河半紙ヲ製スル三極ノ年々産
出スル額數ハ凡ソ一万駄(一駄ハ凡三拾貫目)ナリ其
内此地ニテ製紙スル額ハ僅ニ二千駄ニシテ餘ノ八
千駄ハ他ノ地方ニ輸送スルナリ
此地ニテ製スル駿河半紙ハ其品類凡五等アリシ但

レ皆蟲害ナシ然レ氏近來ハ印刷局ノ製品ニ一等ヲ
讓リ重ニ日本向ノ品ヲ製セント欲スル見込ナリト
云フ且ツ此地ハ水利最上ナルヲ以テ製紙器械ヲ設
置セント冀望セリ

此地製紙戸數百五十戸製紙ノ金額凡三萬圓ナリ而
シテ現今製紙スルニ人手甚々不足ナリ是レ三極産
額ノ多分ヲ他ノ地方へ運致スル所以ニシテ最モ遺
憾トスル所ナリ故ニ又器械ヲ設置セント欲スルノ
己ムヲ得サル所以ナリ

此地ノ近傍ハ悉ク三極ニ遠セリ即チ富士山ノ山麓
ハ極テ適當ノ地質ナリ故ニ岳麓ヲ環シテ三極ヲ植
付ケハ其増殖センテ幾倍ナルヲ知ラサルナリ
三極ノ培養ハ極テ單一ノモノニテ五月ニ於テ其並

植スル畦線ニ就テ其根ノ周圍ノ土ヲ鋤ヲ以テ輕々
ニ挑發シ兩畦ノ中央ニ堆積シ兩畦ノ間ニ凸形ヲナ
サシメ畦々皆斯ノ如クシ十月ニ至リ此凸形土ヲ鋤
キ崩シ其土ヲ攤シテ再ヒ樹根ニ歸ラシメ更ニ其畦
線間ヲ凹形ニ掘リ其土ヲ樹根ニ擁ス

畦圃ノ産出額ハ平均一反凡四圓ナリ
此地ヨリ運輸筋ハ富士川ナリ吉原ヨリ甲府ニ懸道
アリ從來三極ヲ植付タルモ重ニ此懸道ノ近傍ニ沼
フタル所ニシテ遠クモ一里内外ヲ出サルナリ以來
トテモ此三極ヲ植付ント欲セハ斯ノ如クニシテ可
ナリ而シテ今開墾藝種セント欲スルノ地ハ從來人
民ノ共有地ニシテ牛馬ノ秣草場ナリ

天子カ岳

此地ハ牧牛場ナラハ可ナラン乎

麓村

此地ハ竹川範治ノ所有地ニシテ凡四里四方許リノ平原ナリ

此地ハ曾テ六七年前桑樹ヲ植付タルニ其葉ノ最大ナルモノハ堅八寸五分幅六寸ナリ又々三楹ノ窠上ナルモノハ三尺乃至八尺ナリ

此地又旧鑛坑アリ其数凡十六個ナリ

上柚野村

此地ニ石炭アリ然レモ其石質猶ホ未々成熟セスト云フ

見込 茲ニ富士郡旧五小區丈ノ計筭ヲ掲ク、

此地ニ於テハ僅ニ其産額ノ十分ノ二ヲ製造シ十

分ノ八ハ他所ニ輸送ス今其全額ヲ製造セハ拾五萬圓ノ金額ニ至ルヘシ而シテ此拾五萬圓ノ金額ヲ此地ニテ取引スル能ハサル所以ノモノハ製紙スルニ人工ノ不足ナルカ故ナリ故ニ此地ニハ必ラス製紙器械ヲ設置セサルヘカラス而シテ其器械ハ小形ニシテ箇數ハ多カラサル可カラサルナリ

現今ニテ一種ノ三楹ヨリ五等ノ紙ヲ製スルハ甚々多數ノ如クナレモ器械ヲ設置セハ幾等ノ紙ヲ製出スルモ難カラサルナリ

製紙ノ原質タル三楹ヲ増殖スルニハ富士ノ岳麓極テ適當スレハ今該植物ヲ岳麓ニ藝種セハ六百方圓丈ノ原質ヲ得ンヲ難キニ非ラサルナリ

此荒地ヲ開墾シ三極ヲ植付クルニハ麥豆等ノ穀
類ヲ耕作スルカ如ク手数ヲ要スルモノニ非ラス
唯一回地面ヲ耕過スレハ足レルモノナリ此地ヲ
耕スニハ馬ヲ使用シテ合複ノ鋤ヲ以テスレハ一
層ノ好果ヲ得ヘシ
岳麓ハ斜面ナルカ故ニ外見スレハ駕馬ノ鋤ヲ使
用スルニハ頗ブル困難ナルカ如クナレト實際
決シテ然ラス猶ホ世界ハ球形ナレト人類ノ住ス
ル所ハ皆平面ナラサルナキカ如シ岳麓ノ斜面世
界ノ球形是皆其巨大ナル全体ニ就テノナレハ
其幾千万分ナル一小部ニ就テハ殆ント其全体ノ
形容ヲ存セサルカ如キモノナリ
此一郡ニ於テモ猶ホ且ツ駿甲豆三州ノ窮民六万

戸ヲ移スヲ得ヘシ而シテ此移住民ハ此地ニ於テ
一戸ニ付百口ノ産ヲ得ルモノト看做スヲ得ヘシ
此地ニテ重立タル某訪ヒ來リタルカ故ニ日本紙
ノ歐洲需要ニ遠スルニ至レル情實ヲ委細ニ説話
セリ即チ一ハ地圖ノ用ニハ諸商品ノ包紙ノ用ニ
ハ雪隠紙ノ用ニハ活字紙ノ用ニハ「エツピ」紙ノ
用ニハ証書紙ノ用ニハ右等ノ用ニ日本紙ヲ用ユ
ルハ西洋紙ヲ用ユルヨリモ甚々適當便益ナルヲ
歐洲ノ人ニテ漸クニ會得シタレハ日本紙ハ数年
ヲ出スレテ必ス歐洲ノ紙價ヲ動揺スルニ至ルヲ
得ヘキヲヲ説話セリ
然レトモ其需用ヲ西洋ニ廣ムルノ手数ヲ論スルハ
是ヲ他日ニ讓ツルヘシ

西洋紙ハ一斤ニ付平均三佛乃至五佛ナリ日本紙
該地産ハ拾貫目ニ付志田ナリ其上等ニシテ八百
目ニ付志田ナリ是ヲ以テ之ヲ觀レハ日本紙ト西
洋紙トノ代價ノ差ハ甚々巨大ナラス乎而シテ其
利用ニ至リテハ日本紙ハ西洋紙ニ一步ヲ讓ラサ
ルナリ斯クノ如キ最好ノ紙ヲ産シナカラ此レ迄
地圖其他數多ノ需要ニ通スルニ至ラサリレ所以
ノモノハ蓋シ直輸出法ノ開ケサリシニ職由スル
ナリ
洋人ノ商法ヲ觀察スルニ彼ハ飽マテ日本ノ情實
ヲ搜リ得テ商法ニ從事セリ例之ハ其開港ノ初メ
ニ於テハ唯白色ノ西洋布ヲ輸入セシモノ近來ハ
種々日本ノ風俗ニ適シタル模様ヲ押シテ舶載セ

リ甚々シキニ至リテハ竹ニ准ノ模様ヲ押シタル
モノヲ舶載ス而シテ昨年ノ如キハ半年ニシテ志
田萬回ノ輸入ヲ為シタルニ非ラスヤ其商法ニ照
勉注意スルノ篤キヲ想フヘキナリ然リ而シテ退
テ日本商賈ノ状態ヲ觀察スルニ前段陳述セシカ
如ク本来美質ノ紙ヲ産シナカラ猶ホ且ツ其貿易
ハ微々振ハス慨歎ニ堪ヘサルナリ余カ歐洲旅行
中伊國以東ヲ經歷セシニ蘇士ナル「ジュリク」ノ發明
ニテ僅ニ薪木位ニテ運動スルヲ得ヘキ器械ヲ設
置セリ殊更伊國邊ニテハ未タ大ナル器械ナキヲ
以テ多ク此器械ヲ設置ス形ハ小ナレ其形ノ小
ナルカ故ニ運轉スルニ便ニシテ且ツ之ヲ移轉ス
ルニモ便ナレハ設置者ノ意ニ從テ何レノ處ヘモ

運ブテ得ヘケレハ其用ヲ為スハ却テ大装置ノ器
 械ヨリモ大ナリ今我日本ニ於テモ此小器械却テ
 適當スヘシ殊更静岡邊ハ其地嶮ナルカ故ニ装置
 ノ大ナル器械ハ適當セサレハ必ス此小器械ヲ設
 置セサルヘカラサルナリ
 然レモ其製作ハ固ヨリ一個人民ノ容易ニ辨シ得
 ヘキモノニ非サレハ工部省等ニテ之ヲ製シ年
 賦ニテ之レヲ人民ニ貸下ケテ商品ノ運搬ヲ鼓舞
 獎勵スヘシ此地ハ都テ地勢高隆セルカ故ニ水利
 甚々便ナレハ此器械ヲ設クルニモ過分ノ費用ヲ
 要セサルヘキナリ

駿河國庵原郡物産略調 郡役所調査ニ係ル

一 製紙 駿河半紙 佐束 駿河半切 斤数高貳拾貳萬五千百〇七斤

産出著明ノ地 南松野村 北松野村 河内村

中河内村 炭焼村 和田島村

一 甘蔗原質斤数高貳百拾三萬四千八百六拾六斤

産地同上 神澤村 堰沢村 中村 小金村

一 製塩石数高四百九拾五石

産地同上 神澤村 堰沢村 中村 小金村

一 製茶斤数高八萬八千五百九拾六斤

産地同上 庵原村 吉原村 杉山村

一 楡 斤数高六拾三萬七千七百六拾貳斤

産地同上 吉原村 布沢村 柏尾村 清地村

一 藍草

産地同上 谷津村 八木間村 小島村 但沼村

一 毒荏實

產地同上 吉原村 梅ヶ谷村

一興津鯛概数 吉萬尾

漁業著名ノ地 町屋原村 今宿村

興津宿網持金主 宮城吉次郎

沼津 駿州

本地ハ從來竹細工類ヲ物産トス 烟管及ヒ籠行李等
ナリ 近來積信社ヲ創立シテ専ラ再製茶ヲ出ス

松野村 駿州

此地ノ樟腦製造ハ別ニ持種ノ法アルニ非ス 唯樟腦
ノ所在ニ就テ伐採シ以テ之レヲ製スルナリ 製造者
兩名アリ一ハ本村農井手半助ト云ヒ一ハ伊豆國君
澤郡中島村藥店朝日傳吉ト云フ 井手ハ嚮ニ三菱會

社員土肥某カ此業失敗ヲ後ヲ引兼ケタル人ト云ハ
リ 樟腦一貫目ヲ得ルニハ木片六拾貫目ヲ要ス 樟腦
一貫目ノ代價ハ凡金壹圓余ナリ

木片拾六貫目ヲ削取ルヘキ 樟樹ノ代價凡壹圓五拾
錢ナリ 左スレハ木片六拾貫目ヲ削取ルヘキ 樟樹ノ
代價ハ凡六圓内外ナルヘシ

木片削取ノ費用ハ拾貫目ニ付五錢許ナリ
製造ニハ製造者自ラ手ヲ下シ 傍ラ志人ヲ要ス 此一
人ノ賃銀凡貳拾四五錢ナリ

樟腦ヨリ油ヲ生ス 拾六貫目ノ木片ヨリ油凡四升ヲ
得ヘシ 油壹升ノ代價凡拾錢ナリ 但シ臭氣甚強ク且
ツ蒸發シテ減却スルノ窠モ速カナリ

一箇月間朝日氏カ賣却スル 樟腦代價ハ凡五六拾圓

井手氏ハ貳三拾四ナリト云フ

清水 駿州

本村ノ周圍三百五拾町 人家千〇百戸 人口四千許
輸入ノ高百三拾八萬六千八百九拾四

輸出ノ高百七拾萬九千百五拾貳四

輸出入ノ重立タル者

米 大小麥 大豆 白下砂糖 白砂糖 舶來砂

糖 製茶 水綿縞 塩 魚粕 烟草 壘表 陶

器

本地ノ人民ハ多ク商人傭夫ノ類ニシテ耕作ニ從事
スル者甚々尠シ而シテ港灣ノ形勢ハ横濱以西四日
市以東ニ冠タルノミナラス却テ其右ニ出ツト謂フ
ヘシ且其位置ノ至好ナルヲ甲州豆州駿州各地ノ便

道ニ當ルモノトス

本村ノ地形ハ南北ニ長ク中間已川ハ幅負三拾六間
ニシテ運輸ノ便アリ川ヲ隔テ、東ノ方ニ固有ノ一
平地アリ古來本港ニ出入スル船舶未々衝突毀碎ノ
患アルヲ聞カス

近來港灣内ニ一ツノ波門ヲ築ケリ固有ノ平地ハ現
令耕耘シテ麥ヲ栽レトモ却テ市街倉庫ヲ設ケ市情
ヲ盛ニニスルニ適セリ又港灣ノ形状ハ灣環袋ノ如
クシテ三穗ト江尻ノ間相距ル僅ニ八町許港内廣張
シテ倭船數百艘ヲ泊スヘシ倘シ稍々巨大ノ漁船ヲ
泊シテ灣外數十歩ノ距離ニ於テスル井ハ何ソ風浪
毀壞ノ患アラシヤ實ニ天然至善ノ埠頭ト謂フヘシ
此地ノ人民ハ一般本地ニ通商ヲ開カント希望シ彼

ノ新築セル波門ノ如キハ本村五十二戸ノ巨商等カ
盡カセル所ニシテ後來益々此地ノ繁盛ナランヲ
充分見込タレハナリ

見込 本地ノ形勢ニ據レハ三保ノ南面ニ一座ノ砲
臺ヲ築カサル可ラス已川ハ運輸甚々便アリ直ニ
静岡ニ達スルモ尙末流ニ於テ二町餘ノ別河ヲ開
キ且水道ヲ疏濬スルアラハ殊更之レカ運搬ヲ便
ニシ巨船ヲシテ續々静岡ニ到ラシメ許多ノ人カ
ヲ省クヘシ今此疏鑿ノ費用ヲ計ルニ僅々五千圓
ニシテ其利益ハ實ニ今時ニ幾倍セン又港灣内南
ノ方ニ二箇ノ沙洲アリ是レ亦容易ニ疏濬シ得レ
ハ舟楫碇泊ノ數ヲ増スヲ辨ヲ俟タス抑本地ハ豆
駿全地ノ要路ナレハ談物産ハ到底此地ヲ經由シ

此地ヨリシテ各地僻陬道路ノ便ヲ通シ萬品静岡
ニ輻湊ノ後轉シテ此ヨリ輸出スルコソ殖産貿易
上ノ主眼ナリトス

後來豆駿甲等諸州ノ便ヲ謀ルニハ必ス清水ノ一
港ヲ隆盛セシメサルヘカラス今夫レ駿河ノ物産
ハ海外輸出ノ品アレトモ必ス横濱港ヲ經由シ各
商賣買シテ行李ヲ改造シ再々歐米諸州ニ輸出ス
ルナリ故ニ其純益タルヤ率子外商奸賈カ手ニ歸
シ煩勞スルモ亦々枚擧スヘカラス自今本地ヲ以
テ豆駿甲ノ物産ヲ積出スヘキ本基ノ港トシ横濱
港ハ之レカ積替ノミニ供スヘキモノトセハ可ナ
ラン

本港ノ如キ實ニ海内無二ノ港灣ナレハ前条論旨

ノ如ク之ヲ本基トシ我人民カ特有通商口トナシ
テ横濱一港ノ外商等ヲシテ貿易ノ權ヲ掌握セシ
メサルヲ得ヘシ且又三菱會社ノ如キハ方令政
府ノ保護モアレハ常ニ沿海至要ノ港路ヲ往復シ
テ善ク利害ニ注意シ我人民ノ幸福ヲ保持セサル
ヘカラス假令海外人ハ我政府ニ逼リ此等ノ地ニ
於テ通商口ヲ開カント請フモ決シテ允可スベカ
ラス

駿豆甲ハ後來繁盛スヘキ位置ナリト雖氏常ニ培
養ノ不足スルヨリ充分ノ目的ヲ達スル能ハス令
ノ形勢ニシテ猶此不足アリ況ヤ此上繁盛ナルニ
於テチヤ故ヲ以テ清水ニ肥料製造所ヲ設ケ沿海
許多ノ魚類ヲ製シ耐久ノ肥料トナシ漸次ニ甲州

其他山村僻邑ニ輸送シ其廣益ヲ謀ルニ至要ノ地
トス

石決明殼ハ從來廢棄セルモノ多シ駿豆海岸許多
ノ遺利ト云テ可ナリ近來洋製截殼器械ヲ以テ之
ヲ細截シ紐子ノ材トシテ輸出スレハ是亦々少
ノ利益ニハ非サルナリ

静岡 駿州

静岡漆器商結社志願人名

- | | |
|-----|--------|
| 頭取 | 森 利 七 |
| 副頭取 | 矢入七左衛門 |
| 同 | 佐藤吉右衛門 |
| 同 | 肝煎 |
| 同 | 上坂長七 |
| 同 | 青木次兵衛 |

同

中川專藏

支配人

中川專之助

同

杉山仁兵衛

同

伊藤太兵衛

同

矢入金十郎

同

大多輪平吉

會社顧問

山本安兵衛

同出納總轄

尾崎伊兵衛

上坂幸助

大石熊吉

藤井嘉七

加藤新十

小野市右衛門

池田庄右衛門

松永吉左衛門

小川泰助

新谷理兵衛

八木榮吉

山村淺次郎

杉山又藏

武藤孫左衛門

静岡町

一漆器一ヶ年製造高凡拾万四千回

一寄木細工一ヶ年製造高凡六千回

- 一竹細工一ヶ年製造高凡貳万口
- 一漆器職人五百名
- 一寄木職人五百七十五名
- 一竹細工職人百五十名
- 一鰻具細工職人三十名
- 一蒔繪師百五十名
- 一金物職百五十名

合計一千五百五十名

右戸數四百 十四戸

輸出ハ益々増加スルノ景況ナリ然レ其取引ノ利益ハ甚々少ナクシテ此内却テ損失スルモノ多シ是レ其商賣上横濱ノ奸商等ヨリ支配セラル、カ故ナリ例之ハ此地職人輩ノ内ニ横濱ニ至リ低價製造ノ

競争ヲ為スヲアルト又々右ノ細工物ノ注文主ニ横濱ノ奸商輩仲買ニ立入り低價周旋ノ競争ヲ為スニ由ルナリ

四五年以前ヨリ静岡所ナル商人ノ重立タル輩石横濱ヨリ支配セラル、状勢ヲ歎、二十六名申合セ拾万口ノ資本ヲ備ヘ一會社ヲ結、右ノ状勢ヲ回復セント企圖シ五万口丈ハ五ヶ年無利足ニテ政府ヨリ貸下ケアラシムヲ歎願セリ然レ其允許ヲ得サリシ由ナリ

見込 日本ノ漆器ハ世界無類ニシテ近來其歐洲ニ流行スルヲ夥多ナリ然レ其歐人近來日本漆器ノ却テ昔日ヨリモ粗惡ニ落シテ歎スルモノアルニ至レリ仍テ考フルニ商品ナルモノハ獨リ精工ノ

モノ、ミ製シテ國益ニナルヘキモノハ非ラス故
ニ其商品ヲ製スルニ固ヨリ精工ヲ極ムヘキ品柄
ハ此限ニ非ラサレモ通例ノ品柄ハ精工ニ至ラサ
ルモ一通リ丁寧ニシテ粗惡ニ流レサル様ニ注意
シ其体ヲ小形ニ製スヘシ是レ物品ノ形体小ナレ
ハ手間ノ半ヲ減節シテ品物ハ却テ結構ナルモノ
ナリ
近來切ニ亞國向ト唱フルトアリ是レ其亞國ノ需要
ヲ増加セシハ本年我國商人ノ其手ヲ亞國人ノ意ニ
適スル様ニ尽セシカ故ナリ故ニ欧州ニ於テモ此方
ヨリ手ヲ尽サハ固ヨリ其需要輸入ノ大ナルトハ亞
國ノ及ブ所ニ非サルナリ
保護ノ事ニ至リテハ五万圓ハ差置キ設拾万圓々

リトモ貸与シテ保護スヘキナリ
政府ノ保護スヘキモノハ四種ノ品類ニ止マルカ
如ク然リ即チ生糸茶紙漆器等ナリ然レモ此内宇
治茶ノ如ク輸出ニ関係少ナク且ツ産出額ノ多カ
ラサルモノハ固ヨリ保護スルヲ要セサルナリ
貿易ノ權ヲ回復スルニハ漆器會社ヲ組織スルニ
如クハナシ此品ハ外國ニ其類ノ少ナキカ故ニ之
レヲシテ高價ニ至ラシムルニハ極メテ容易ナリ
トス
茶ノ産出額ハ一ヶ年三百万圓ナリ其耕作ハ年々増
加シ尚ホ益々増加スル景況ナリ且ツ茶間屋ノ輩切
ニ直輸出ヲ冀望セリ前年直輸出ヲ試ミタルニ日本
茶一斤ニ付ハ「ペンズ」ナリ然ルニ向ノ賣捌所ニテ賣

捌方遲緩シテ遺憾少ナカラサリシ由ナリ紅茶ノ取
引モ少々ツ、連續セリ

〔見込〕既往今來日本茶ノ西洋ニ需要アル甚ナシト
セス然ルニ西洋ニ在テハ猶ホ日本ノ國産タルヲ
知ラサルモノ居多ナリ抑モ日本ハ良美ナル茶ヲ産
シナカラ其名ヲ歐洲ニ專ラニスル能ハサリシ所
以ノモノハ他ナシ從來彼レニ造スル製茶ノ法ヲ
知ラサリシニ由ルナリ

又タ日本茶ハ其産額ニ至リテハ固ヨリ支那ニ及
ハサレ氏一体ニ廉ナルカ故ニ洋高輩之レヲ支那
茶ニ交和シ支那茶ノ名ヲ以テ販賣セリ顧ニ其交
和スルモ日本茶ト支那茶ト交和スレハ其味ノ美
ナリト云フ迄ニ止マラハ可ナリ然レ氏荷作方記

号等ニ至ルマテ一ニ洋高ノ手ニ委シテ唯彼所存
通リニ為セシヲ以テ獨リ日本茶ノ日本茶タル本
性ヲ失セシノミナラス終ニ日本茶ノ名サヘモ猶
ホ且ツ世界ノ市場ニ知ラレサルニ至レリ是レ豈
遺憾ナラスヤ然レ氏是レ偏ニ直輸出ナカリシカ
故ニ坐スルナリ

日本茶ノ信ヲ外國市場ニ得ルノ方法種々アリト
雖氏之レヲ他ノ報告ニ讓ルヘシ
茶ニ於テモ横濱ニ支配セラル、状勢アルカ故ニ
到底結社セサルヘカラス且ツ其輸出ヲ盛大ナラ
シムルニハ政府ヨリ為ニ外國ノ為換方ヲ開キ為
換手形ノ取引ヲ獨リ西洋銀行ニ委セサル様ニ企
圖スヘシ

茶ヲ輸出スル人々ニ於テモ彼ノ地ニ於テ賣捌方
 遅緩シテ金融ニ差支ヲ生スル等種々ノ困難ニ逢
 遇セリ是レ到底荷主ノ困難スル所以ナルカ故ニ
 彼ノ地賣捌方ニ於テハ一個ノ賣捌所ニテハ自然
 競争ヲ生セス專賣ノ弊ヲ來シ且ツ荷主等ノ疑惑
 ヲ生スル所以ニテ商業上不景氣ノ原因ナレハ畢
 竟一個ノ賣捌所ハ策ノ上ナルモノニ非ラサルナ
 リ
 諸郡長等ノ面晤ヲ經シモノハ委細西洋商業ノ
 景况狀勢ヲ談話シタリ且ツ此直輸出ノ事ニ向
 三ヶ年ヲ經過セサレハ成就セサルヘキヲ諭説
 セリ

有渡郡有東村十二年度製糖實益概算表

項目	數	價 附	代 價
畑 寺 反 歩	六 千 本	千本 三拾三 麦換	寺 田 九拾八錢
苗	寺 度	寺 田 二 六 荷換	寺 田
人糞肥料	三 度	寺 田 二 枚換	拾 田
油 粕	貳拾八人	寺 人 拾 五錢	四 田 貳拾錢
栽培人足	拾八人	寺 人 拾 五錢	貳 田 七拾錢
收入人足	貳拾人	寺 人 八 錢	寺 田
莖ノ苞剥女	千貫目		
莖ノ貫目	五 人	寺 人 貳拾五錢	寺 田 貳拾五錢
製糖人	拾 五 人	寺 人 拾 五錢	貳 田 貳拾五錢
搾器扱人	口付共五日雇	寺 日 六拾 錢	三 田 四拾五錢
搾器廻シ馬	五 本	寺 本 貳拾五錢	寺 田 貳拾五錢

大 歳 省

石炭 薪 其他	小作米	入費合計	白下糖	差引
	七斗五升	金四拾四九拾八錢	百拾五貫目	金三回貳拾五錢
	金三回貳付 七斗貳升五合換	金三回貳付 貳貫六百目換	純益	有渡部
	六回	四拾貳回貳拾三錢		有東村調

豐田郡深見村十二年度木綿作培養實益概表

土肥	人糞	種	畑寺反歩	數	價附	代價	說明
二十五荷	八十荷	三升五合	三升	貳錢	七錢	三回六拾錢	志回貳付二十荷 蔣附 培養 一期 一回
志荷 貳錢	志荷 貳錢	志升 貳錢	志回貳付 二斗換	五拾錢	五拾錢	五拾錢	蔣附、期 一回

鱈粉	蔣附	耕作	芽切	先切	收入	小作米	入費統計	收入實綿	差引
六斗	女男 一三人 七人半	女男 五人 七人半	女男 三人 四人半	女男 八 十五	女男 八 十五	六斗	金拾三回四拾五錢	四十二貫目	金四回八拾志錢志厘
志回貳付 二斗換	志回貳付 二斗換	志回貳付 二斗換	志回貳付 二斗換	志回貳付 二斗換	志回貳付 二斗換	志回貳付 二斗換	拾八回貳拾六錢八厘	拾八回貳拾六錢八厘	豐田郡 深見村調
二番耕作兩度二用ノ	根肥人尿 七肥 廿五荷	耕土肥 三度	芽切 二回	先切 三回	收入及 屑綿拾共	志及三付米志石ノ内 夏作六ア方	培養八通常 十二年八非常豐熟	培養八通常 十二年八非常豐熟	

島田金谷ノ邊ハ大井川ニ連リ率ニ皆沙地ナリ然レ

金谷

豐田郡

深見村調

トモ地ニ高低アリテ其高所ハ多ク石礫アレハ膏腴
ナリ此地従前多ク棉ヲ産ス近來輸入綿花ノ為メニ
段々其額ヲ減シタリ島田驛ハ二百五十年前僅ニ一
二ノ人家アリシ金谷モ本來空谷ナリシヲ近傍小邱
ヲ鑿開セシモノナリト云フ右ノ二ヶ所ハ別ニ著明
ノ産業ナシ故ニ人民一般従前盛シナリシ棉花ノ産
業ヲ興サントヲ希望セリ其有志ノ重立タルモノ器
械ヲ設置セントヲ企圖ス其人ハ即チ鈴木久一郎ニ
テ余其人ニ面晤シタリ同所桑原穂三郎モ鈴木ト同
ク發起人ナリ綿花紡績器械設置ニ付有志醸金ノ不
足高貳万田貸下ヲ企圖ス但シ該驛向谷大井川ノ分
水ニテ水門二口アリテ水ノ涸渴スル憂ナク復々潰
溢ノ憂ハ水門ヲ設ケテ開排スヘシ地ノ高低ハ一町ニ

凡四五尺ノ差アリ器械二千駄ノ價凡貳万田設置ノ
入費壹万田地所置^買上ケ及ヒ建築費三千田綿ノ原質
代及其他ノ雜費七千田ニシテ合金四万田ナリ此内
貳万田ハ彼ノ有志者カ醸金ヲ以テ之ヲ補ヒ不足ノ
貳万田ヲ此項官ニ向テ年賦償還セントヲ出願セリ
管内従前綿ノ産額凡三百万斤ナリ今其半ヲ減ス然
レトモ今ヤ器械ヲ設ケテ之ヲ製セハ往時ノ額ヲ超
過スルハ疑ヲ容レサルナリ

牧ノ原 相原

七百丁步ヲ静岡士族ニ與フ
抑モ牧ノ原ノ開墾ハ旧静岡藩ノ項精營隊ノ長中條
景昭^{旧名ハ助}ナル者廢藩置縣ノ際部下ノ士三百戸ヲ
率ヒ徳川氏ニ從テ静岡ニ來ル其際宅地トシテ本原

七百丁步賜リタレハ部下士ノ格式ニヨリ差等ヲ設
ケ之ニ分割ス明治四年着手本原三分一ヲ開墾ス明
治十二年本園維持ノ為メ政府ヨリ金貳万圓ヲ貸与
セリ
此内他所ノ移住スル者アルトキハ別人之ヲ引請テ
能ク手ノ届タル様子ナリ然レ氏何分肥料ニ不足ス
ル形况ヲ免レス

見込 金谷ヨリ菅ヶ谷マテハ僅ニ一坂ヲ登リテ皆
一面ノ平地ナリ其地質タル極テ茶ニ適應シ且ツ
果樹ニ適ス然レ氏概シテ之ヲ論スレハ麥類其他
雜穀ニ應セサルカ如シ牧ノ原ハ未々百分一ヲ開墾
セス此地質ハ竅モ西洋葡萄ニ適應スヘキハ論ヲ
俟タス且ツ余ハ未々曾テ目撃セサル程ノ好地ナリ

此近傍ノ樹林ヲ段々伐採シ盡サントス實ニ憂フ
ヘキナリ此事ヤ第一茶製ニ供スル薪ノ不自由
ヲ來シ第二ハ降雨ヲ招クノ媒介ヲ失フニ至ルヘシ
此邊石灰石甚々多シ此石ハ駿遠甲信ノ農事ニ必
要ナレハ必ス該地方へ輸出スヘキモノナリ我邦
人ハ未々此石ノ肥料ニ必要ナルヲ知ルモノ少シ
ト虽氏西洋ニテハ既ニ之ヲ明解セル故必ス日本
ニ於テ段々需要ヲ益スニ至ルヘシ
此地運輸ノ便ニ宜シク遠州洋ニハ相良港アリ東
海道へハ近接セリ倘シ速ニ開墾セント欲セハ凡
一戸ニ付建築費金拾圓ト馬一匹ヲ與ヘテ近隣ノ
恒産ナキ人力車夫ノ如キモノヲ移サハ二年ヲ出
テスシテ全原ヲ開墾シ得ヘシ

此地ニ適應スル植物ハ第一葡萄其他ハ楮茶薯芋ノ類皆可ナリ

榛原郡管ヶ谷村ノ石油坑ハ明治六年静岡縣士族村上某癸見シ東京府士族石坂周造ニ讓リ同年穿取ノ試験ニ着手ス其後明治九年鹿兒島縣士族森永源助カ支配トナリ目今坑數一百六十餘ニ至リ石油ノ産額凡四百余石坑ノ深廿八十間乃至四十五間工人三百五十乃至六百人以上等ノ賃錢一日三十拾錢中等貳拾五錢下等貳拾錢油分平均八分八厘製成一石ノ價四圓五拾錢

見込 此地ノ石油産出ハ余其無窮ナルヲ知ル何トナレハ牧ノ原タル豎凡七里半幅凡二里半許該地ノ土質過半一樣ノ性質ニシテ且ツ旧坑ハ今ノ

坑ヲ距ル一里余ナリ然レハ其油脈ノ連續スルヤ疑ヒナケレハナリ獨恨ム石油堀取ノ方法極メテ拙ナルカ如シ近來西洋ニテ新發明ノ器械アリテ其レカ為メ亞國等ニ於テ石油ノ價大ニ下落セリト一般ノ經濟上ヨリ眼ヲ著スレハ今日該油ハ是非トモ堀取ト保護ノ法ハ連續スヘキモノナルヘシ相良港ニ製造所アリ目今費用甚々多ク為メニ純益ナシ且製法ノ拙劣ナルヨリ價格僅ニ四圓半ヲ出サルナリ一日産額二十石ノ内二石ハ澱滓ニシテ全ク棄物トナレリ此レ損失ノ一ナリ粘液ハ二十石中ニ二貫目アリ是亦タ棄物トナレリ右ノ二物ハ決シテ廢棄スヘキモノニ非ラサルヘ

シ余歐洲旅行中右ニ物ヲバ特更ニ上好石炭中ヨ
リ製出シテ諸種染料ニ供スルモノアルヲ見ル右
ノ染料ヨリシテ終ニ藍ノ色ヲモ一變スルノ状勢
ナリ

右ノ状勢ニ擬レハ必ス歐洲該術ニ係ル化學器械
ヲ購ハシタキコナリ

掛川

本驛ハ近來大ニ繁盛ニ赴ケリ但其物産ハ僅一葛布
ニ過キス故ニ自今丸田徳三郎岡田良一郎等ハ専ラ
興産上ニ尽カシ就中茶ノコニ從事セリ該兩名等主
宰トナリテ海外直輸ノコニ汲々タルヨシ從來貿易
ノ一事ハ横濱港ニテ奸商輩ニ左右セラレ困却ノ餘
リ同港居留ノ米一ト協議シ直接輸出ノ談判最中ナ

リ余該兩名ト懇々直輸出ノコヲ説ケリ然レモ米一
ト組合トスルハ不同意ノ事ヲ論説シタリ蓋シ現今
歐洲人ニ在テハ日本人ヨリ直ニ買タキ狀實ナルニ
令又タ米一ト結社スルニ於テハ間接貿易ト格別ノ
差ナキカ故ニ再ニ改革セサルヲ得サルニ至ルヘキ
カ故ナリ今一兩年間ハ利益ノ多カラサルヲ憂フヘ
カラス唯洋人ノ手數ヲ經スシテ直チニ歐洲輸出ノ
法アルコトヲ世人ニ知ラシムルコトヲ急務トス此ノ如
クナレハ歐人モ亦日本茶ノ日本茶タルヲ熟知シ其
製ヲシテ歐州人ニ適セシムルノ製ニ改良スルヲ得
ヘク又タ歐人ヲシテ日本人ヨリ直接購入ノ益アル
コトヲ知ラシムヘシ云々今日ニ在テ茶葉ヲ郵船上ヨ
リ直ニ運致シ是程利益アリト謂フ所以ニハ非サル

ナリ

森町村福川泉吾松井善平ハ既ニ前年横濱商ニ左右セラル、貿易ノヲ概シ其關係ヲ脱セント欲シ一會社ヲ結ヒ直接輸出ヲ為セントセシカ終ニ意ノ如クナラスシテ解散シタリ

遠州内ノ有志輩ハ頻リニ直接輸出ノ件ニ熱心シ尙シ本國ノ茶ノミテ堂々結社ニ至ラサレハ遠州盟主トナリテ諸國ノ茶葉ヲ蒐集シ之ニ遠州産茶ノ名目ヲ付シ一會社ヲ結合シ各地ニ分局ヲ設ケテ直チニ輸出セント決心シタリ

二俣村ハ極邊境ナレ氏毎月四回ノ市アリテ四方ノ人民來リ購求スル甚々多シ其品物ノ最タル者茶ト楮トヲ第一トス然ルニ近來茶ノ形况ハ衰頽セリト

見込

遠州ハ既ニ前條陳述、如ク直接輸出ノ基本

ヲ得タレハ此際我政府ヨリ充分保護スヘキ時ナリ夫レ遠州茶ノ斯ノ如ク盛大ナレハ之ヲ歐洲ニ輸出スルト彼ノ支那^{ベカウ}白毫製茶ノ歐米二洲ニ名アルカ如ク此遠州茶ノ名目ヲモ歐米二洲ニ舉グルヤ必セリ

然レトモ記号ハ日本ノ純式ヲ用ヒ再製法ハ彼ノ精良ヲ取り而シテ海外直輸ニ至ルマテハ勉テ我政府ノ之ヲ保護セントヲ要スルナリ

現今茶葉ノ輸出額ハ三百万圓ナレ氏彼ノ外高カ^製製ヲ受ケス直チニ輸出ヲナス所ハ猶此額ニ倍ヤンハ固ヨリ容易ナリト信ス

現今茶葉ノ相場ヲ聞ケハ一斤漸ク拾錢ナリ現今

歐洲茶葉ノ賣價ハ平均一斤五六拾錢ナリ

現今有志輩ハ直輸ヲ企圖スル際ニ當リ一ノ憂アルヲ免レス何ヲカーノ憂ト云フ直輸ニ當リ一般仲買高ヨリ故障ノ害ヲ蒙ランヤヲ恐ルナリ余按スルニ決シテ然ルノ理由ナシ其故如何獨ソ茶葉ノミナラス生糸其外皆歐人ハ直接輸出ヲ冀望セリ故ニ三年ノ後必ス彼レノ需用ハ益々増加ニ至ルヘシ唯三年ノ辛勞アルハ勉テ之ヲ耐忍セサル可ラサルナリ

右ノ人氣ヲ以テスレハ曾テ横濱港ノ外商并ニ日本ノ問屋等ノ為メ制セラレタル故ニ遠州人ハ横濱迄廿ハ輸出スルヲ欲セサルニ至リタレ氏今日ニ至リ畢竟其制セラレシ羈絆ノ為メニ却テ直輸

ヲナサントスルノ精神ヲ發揚スルニ至リシハ實ニ無上ノ幸福ト云フヘキナリ

天龍川ニ沿テ石神邊ヲ巡回セシニ有志等教導シテ綿花栽種ノ地ヲ覽セシム而シテ有志者謀テ紡績會社ヲ創立セント希望ス其概略ハ左ノ情願書ヲ以テ見ルベシ

紡績會社設立ヲ欲スル所以ノモノハ近來輸出綿糸ノ巨額ニシテ貿易不平均ヲ生シ隨テ内國綿花耕作ヲ衰頽シタルヲ慨セシナリ蓋シ本州ハ綿花産概算略四拾万山ト稱ス而シテ本州ハ綿糸ヲ要スル夥多ナリ其線綿ヲ東京若クハ信州地方ニ致シ製糸ヲ以テ東京若クハ信州ヨリ抑ク慣行ナリ然レ氏運搬費巨額ナルカ故ニ自然唐糸ヲ使用スルニ至レリ紡績

器械ハ三州地方ニ既ニ官立ノヲ聞ク景慕ニ堪ス
當地ヘモ官立ヲ欲ス^レ氏固ヨリ人民徒手官立ヲノ
ミ仰クヘキ理ナキニヨリ別紙ノ通有志結社株金募
集ノ處加入人陸續セリ然レ氏本州産綿ヲ製スルハ
僅ニ一ノ紡績所ノ能ク容ル、所ニ非サレハ奏功ノ
上ハ段々數所ノ製場ヲ設クヘキ所^在ナリ且ツ創業
ノ初ニ一敗スレハ餘害ヲ遺ス尠ナカラサルカ故ニ
株主等ノ損失ナランヲ欲スレハ創立資本御補助ト
シテ金三万圓官ヨリ貸下アラハ益人民ノ信ヲ堅ク
シ事業興起スヘシ尤モ返上ハ成功ノ上利潤ヲ以テ
辨スヘシ然レハ格別ノ御詮議ニテ願意御聞届相成
度株主総代ヨリ奉懇願候

明治十三年一月

株主総代

敦知郡大久保村

馬淵 金吾

長上郡下堀村

竹上 謙三

豊田郡中泉村

青山 徹

同郡 小島村

堀内 五郎

静岡縣令大迫貞清殿

三方原百里園

一明治七年一月始テ開墾ニ着手シ同年四月廿五日播種
成功セリ百里園百町步栽培ノ茶樹五拾万株

一明治十年楮苗木貳萬株栽植

一同十一年楮苗木貳萬。四百拾九株栽植

一同十二年桑苗木七千九百五拾株栽植

一雁皮苗木五千百六拾株栽植

一桑苗木貳萬四千八百五拾貳株栽植

一明治十二年茶芽摘高

壹萬。貳百拾九貫九百四拾壹匁

拂代金五百三拾五匁九拾七錢三厘三毛

製茶千八百四拾五貫七百五拾匁

拂代金貳千貳百拾壹匁六拾五錢五厘貳毛

貳度摘場所四拾六町步賣拂

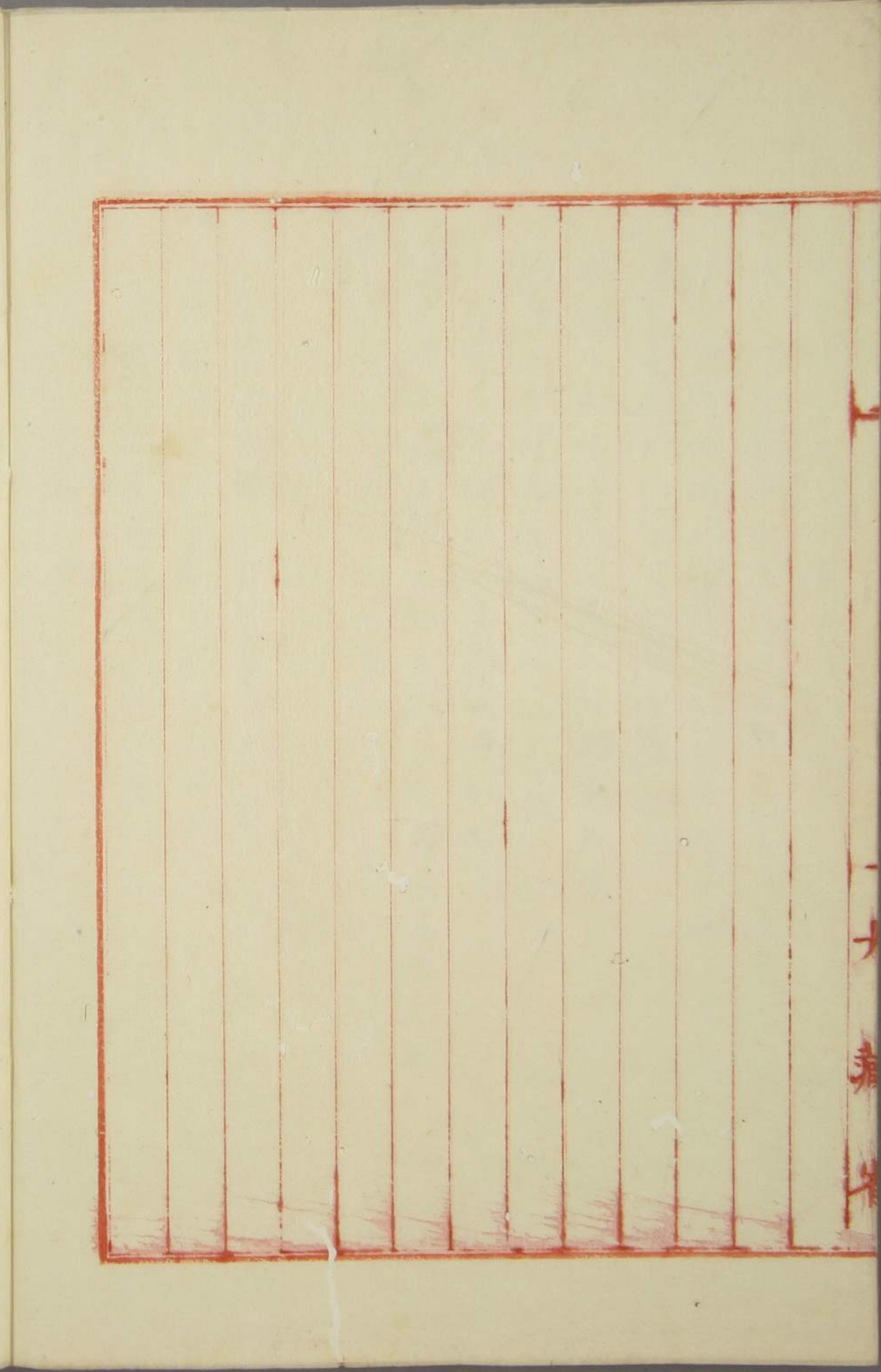
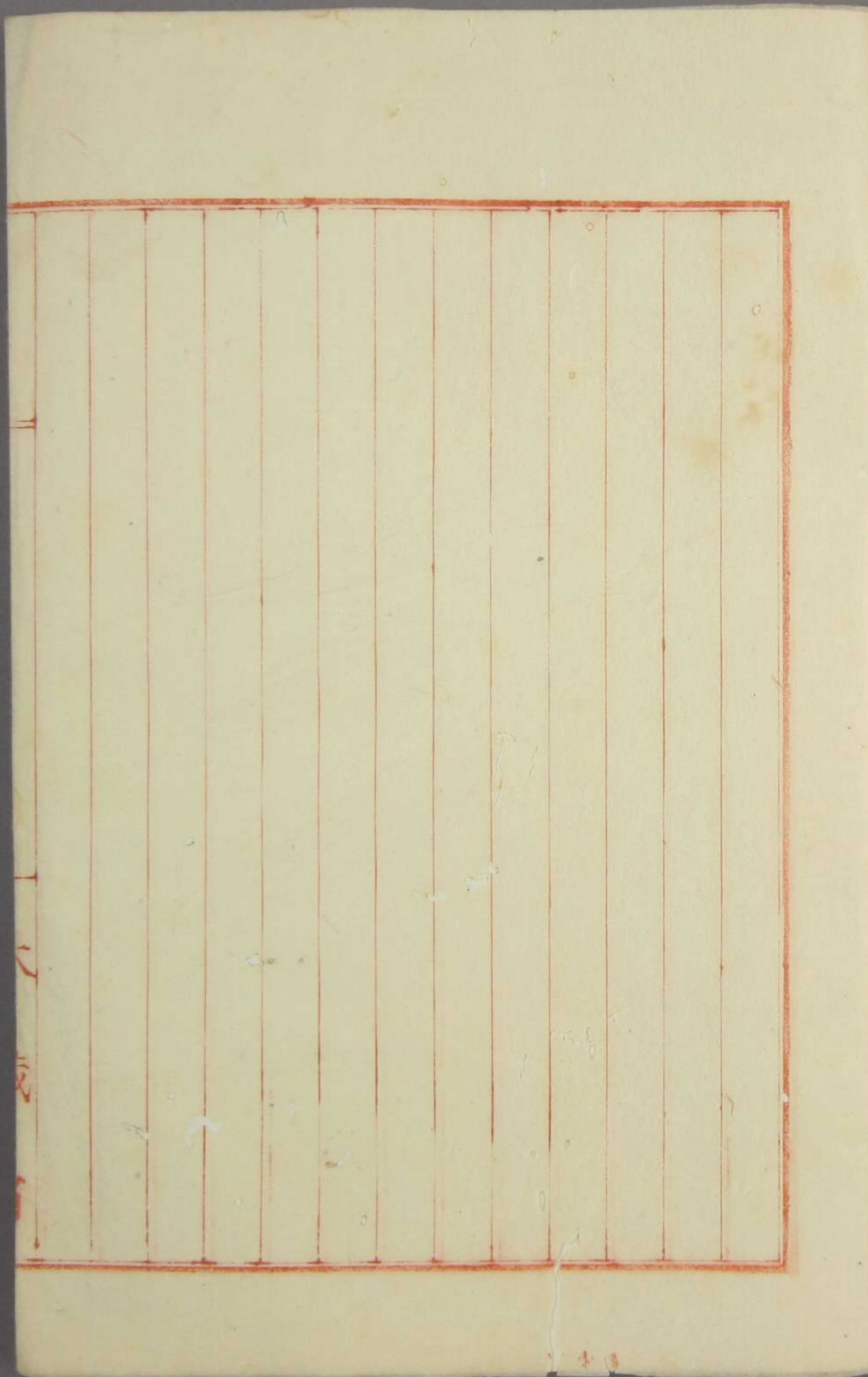
此代金百五拾六匁

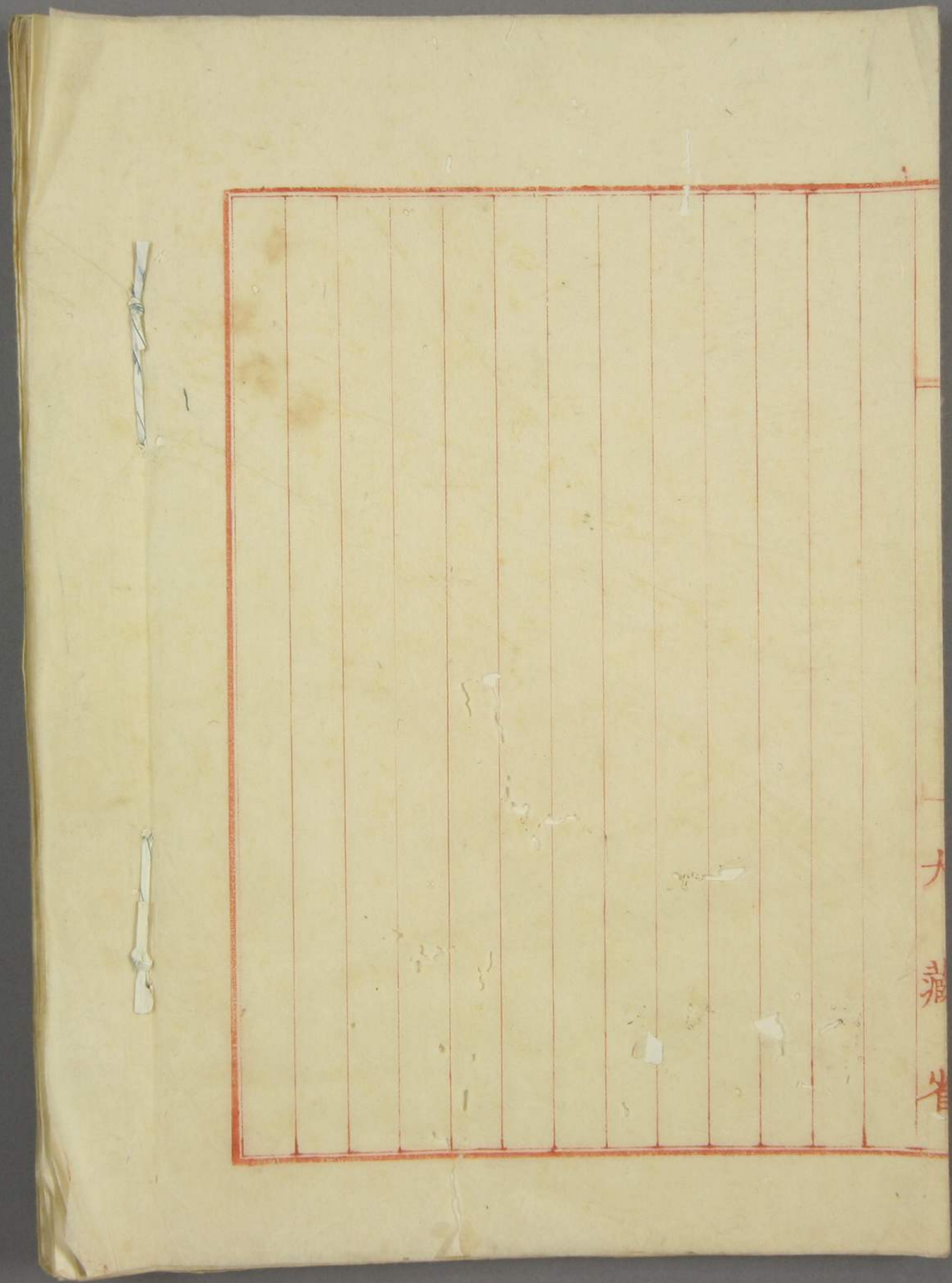
茶實貳拾四石三斗五升五合

拂代金貳拾五匁五拾九錢六厘

枝楮五百四拾貫。貳百五拾匁

拂代金拾八匁。八厘





九
藏
卷